

第37回福島県エネルギー政策検討会議事録（要約）

1 会議の概要

(1) 日 時：平成21年12月1日（火）午後1時30分～午後2時35分

(2) 場 所：杉妻会館 4階牡丹の間

(3) 次 第：

① 開 会

② 議 事

(1) 『中間とりまとめ』における「原子力発電の位置付けについて」及び「核燃料サイクルについて」

(2) 国の安全規制体制と事業者の取組み等について

③ その他

④ 閉 会

2 開 会

【司 会】

- ・ ただいまから第37回福島県エネルギー政策検討会を開催する。
- ・ 本日は、幹事会でこれまで進めている実務的な検証作業の中間報告を受け、議論を進めていく。
- ・ 確認だが、会議の資料は全て公開されているということでいいか。また、本日の会議資料はいつホームページに掲載されるのか。

【事務局】

- ・ 会議資料は全て公開している。ホームページには一両日中に掲載したい。

【司 会】

- ・ 住民の皆さんあるいは関心のある方にご覧いただけるよう、スピーディな対応をお願いします。
- ・ 幹事会の検証内容について、幹事長から説明願う。

【幹事長】

資料1「福島県エネルギー政策検討会幹事会開催状況」に基づき説明。

- ・ 第5回幹事会で整理した幹事会での検証内容について、事務局から説明する。

【事務局】

- 資料 2-1 「国のエネルギー政策の動き」、資料 2-2 「福島県エネルギー政策検討会「中間とりまとめ」の論点・疑問点に関する現在の状況【要約】」に基づき説明。(資料 2-2 「福島県エネルギー政策検討会「中間とりまとめ」の論点・疑問点に関する現在の状況」は参考として紹介。)
- 資料 3-1 「今後の原子力発電所における安全確保の取組みについて(平成17年6月)における指摘事項等に係る現状の確認結果【要約】」に基づき説明。(資料 3-2 「今後の原子力発電所における安全確保の取組みについて(平成17年6月)における指摘事項等に係る現状の確認結果」は参考として紹介。)

【司 会】

- 続いて、意見交換に入る。

【検討会メンバー】

- 今年11月26日に、内閣府が行った「原子力に関する特別世論調査」の結果の中で、安全に関する部分について紹介する。

「原子力発電についての感じ方」について、「安心である」という回答が41.8%で、平成17年の前回調査と比べると17ポイント上昇。それに対して「不安である」という回答は53.9%で、12ポイント下がっている。安全・安心であるという回答が増えているが、依然として不安であるという回答が過半数を超えている。

その中身に注目しているが、なぜ安心だと思うかという理由で、「国を信頼しているから」という理由が37.2%から33.1%と、前回と比べて4.1ポイント下がっている。また、不安だと思う理由について、「国がどのような安全規制を実施しているのかわからないから」という回答が、36.5%から41.5%と5ポイント増えている。

このことから、平成14年の不正問題や平成18年のデータ改ざん問題を受けて、国は一生懸命、検査制度の改善等に取り組んでいるが、国民や立地地域の住民からは理解、あるいは評価を受けていないということが明らかになっている。
- 原子力の安全確保の取組みの中で、幹事会での国の説明は、「科学的根拠をもとに説明し、繰り返すことで、信頼と安心が確保できる」、「国際的なルール・水準の中でやっているのであれば、どのような体制でも全く差はない」ということで、どちらかという自分たちの論理、ルールの中での考え方に支配されている印象を受けた。国の考えの中には、立地地域の住民や国民の目線がほとんど入っていないのではないかと感じている。
- 最初に原子力発電所ができてから、もう40年が経とうとしているが、国の検査体制に対する国民の理解が進んでいない一番大きな理由に、信頼できる、客観性の高い検査体制が確立されていないことがあるのではないかと。
- したがって、原子力安全・保安院を経済産業省から分離独立して、客観性、信頼性の高

い組織にするという我々の要望を、これからも一層強くしていかなければいけない。

【検討会メンバー】

- ・ 平成14年より前の状況に比べれば、国は、原子力政策大綱や原子力立国計画など、国としての考え方を示す際に、一定の数値を示して説明してきているのではないか。その点では、一定の情報公開により、批判も受けるが、それも含めていろいろな議論ができる環境が、従前よりは作られてきたという印象を受けたところ。
- ・ しかし、核燃料サイクルについての議論の中で、六ヶ所再処理工場が、最終段階でトラブルが発生して止まっている状況だが、今後どうなるのか。あるいは、高速増殖炉の見通しについて、「もんじゅ」が今年度中に再開する見通しだとしても、その先進んでいくのか、有識者の考えが分かれている。
- ・ こうした状況において、なぜプルサーマルを急いで進めようとしているのか、国からの説明に、いま一つ確信できないという声が幹事会であがった。このあたり、もう少し国と議論を重ねていく必要があるのではないか。

【検討会メンバー】

- ・ 平成18年11月に発覚した一連のデータ改ざんの際に、県は立地町とともに現地に立入調査を行い、不適合管理の評価や情報共有化の推進など、7項目の申し入れを事業者に行った。このことについて、事業者は「しない風土」「させない仕組み」に「言い出す仕組み」を加えて不正再発防止に取り組み、一定の社内風土の改善などに資してきたのではないか。
- ・ しかし、安全・安心の確保に係る不適合管理の強化や、協力企業を含めた問題意識の共有化は、事業者として不断に実現していかなければならない永遠の課題である。したがって、今後ともきちんとこれらのことを事業者に求めていく必要があるのではないか。

【検討会メンバー】

- ・ 11月から九州電力の玄海原子力発電所3号機で国内初となるプルサーマル発電が始まったということだが、参考として、運転状況や地元の対応状況、あるいは今後どのような形で進むのかなどを調査し、この検討会の中で議論してもいいのではないか。

【司 会】

- ・ ただいまの玄海原子力発電所の調査については新しい話なので、事務局でどのような手法がいいか検討してください。

【検討会メンバー】

- ・ 国民的議論について、平成15年の夏に、福島県内の原子力発電所が全部停止し、東京の電気はどうなるのだと大騒ぎしたのを今でも鮮明に覚えている。そのとき、いわゆる立地地域と消費地というものが全国的に非常に注目を浴びた。しかし、のど元を過ぎてしま

うと忘れてしまうのかと、今まで見てきた中で感じている。

- ・ 最近では、「事業仕分け」で電源立地地域対策交付金が増えられ、また立地地域と消費地の話が出たところである。一過性のトピックとして出てくることはあるが、立地地域がこれほどみんな真剣になって議論しているということが、大消費地では人ごとのようになっているということは、まことに残念なことだという思いがある。
- ・ このことは『中間とりまとめ』を作った頃から、あまり変わっていないのが実態ではないかと思われる。我々としても情報発信していくが、国や事業者も、以前から言われている国民的議論ということを実際に考えてもらいたい。

【司 会】

- ・ ただいまの話は、私も非常に賛同するところ。
- ・ 国民的議論と一口に言っても、どのような形がいいのか非常に難しいが、確かに、「事業仕分け」に対しては皆さんが非常によく関心を持っているので、あのくらい関心が高まれば、状況が変わるのかと思う。
- ・ しかし、それに関係して、県としてもやるべきことはやらなければいけないし、今後、国や事業者に対してきちんとすべきことを言わなければならない。今、県で六団体と連携して要請活動を考えているところかと思うが、総務部長からその内容を簡単に説明願う。

【検討会メンバー】

- ・ 来る12月3日に、県内の六団体の代表者にお集まりいただき、現下の緊急に対応すべき地方行財政問題について議論していただくこととしている。その際、今回のエネルギー政策検討会に関連する事項として、我々が提案したいことが2つある。一つは、原子力安全・保安院の経済産業省からの分離。もう一つは、電源立地地域対策交付金が「事業仕分け」の対象になり現在関心を集めているが、我が県としては、火力発電も含めた電源地域全体の振興方策について、市町村の意見等も聞きながら、改めて国に対して必要な要請をしなければいけないと考えている。
- ・ 12月3日の代表者会で議論をいただいた上で、来る12月4日に経済産業省を始め、国に対して、知事、県議会議長、そして六団体の長の方々と県を挙げて要請活動を行うことを提案したい。

【会 長】

- ・ 4回にわたる幹事会で、原子力発電の位置付け、核燃料サイクル、さらに安全対策について、それぞれ事業者、国、そして識者からの話を聞くなど、さまざまな観点から検証していただいた。本日も、検討会メンバーからいろいろな意見があった。
- ・ 国民的議論の話が出たが、先日の、政府主催の全国都道府県知事会議の時に、私は、「この電気の3分の1はどこから来ているかわかりますか」という話をした。電気の生産県と消費県の意識に、残念ながら少しずれがあるのが現状であり、生産県と消費者との間に常に関係がないと、原子力政策は進まないのではないかと思う。こうしたことから、

国に国策として真摯に対応してもらわなければいけないし、こちらからもきちんと申し上げていかなければいけない。

- ・ 本日、幹事会の報告があったところだが、さらに検証しなければいけないこととして、一つは、核燃料サイクルの将来像がまだきちんとしていないということなので、よく検証していただきたい。また、安全・安心が最優先であることから、現場での安全・安心の確保について、さまざまな角度から検証していただきたい。これを、幹事会にお願いする。皆さんのそれぞれの関心をさまざまな観点から一層検証してもらうことをお願いして締めにした。

【司 会】

- ・ 以上で第37回エネルギー政策検討会を閉会する。